

## 野生動物から田畑を守る

ヌートリアからの被害を防ぐ

ヌートリアは、数年前から生息が確認されていましたが、捕獲数の増加とともに各地で農業被害の報告を受けるなど、生息域が急激に拡大しています。

今のところ被害は河川沿いの農地となつていますが、繁殖力が旺盛なことから個体数の増加とともに被害範囲は広がっていくものと考えられます。



川辺を泳ぐヌートリア

### 農作物の被害

水稲の被害が多く、水稲の茎部分を食害するので、被害を受けた農地では坪刈りのような場所が多数見られます。また、野菜への被害は、ニンジン、キャベツなどの野菜への食害が多く見られます。



ヌートリアの足跡



水稲の食害

### 被害防止の方法

#### 誘引条件の排除

ヌートリアのエサとなるものの放置は、エサ付けをしているのと同じこととなります。特にヌートリアは水辺を活動範囲としますので、河川・水路などの水辺の周囲にエサとなるものを放置しないことが大切です。

#### 柵の設置

電気ショックを与える電気柵の設置が有効です。ただし、地面から10センチ程度の間隔で架線をする必要があるため頻りに除草をする必要があります。トタンやネットで柵をする場合、1m程度の高さで農地を囲みます。ネットの場合、網目の細かいものを用いないと効果がありません。

ん。また、ネットの下部から潜り込み侵入するのでペグなどでしっかりと固定してください。

#### 営巣場所・隠れ場所の排除

河川のヨシ原などはヌートリアの営巣場所となるので、出来るだけ刈払うことが効果的です。また、水路周辺の刈払いを行うなど見通しを良くし、隠れ場所をなくしましょう。

#### 捕獲の方法

ヌートリアの捕獲は、小型の捕獲檻を用いて行います。

#### 捕獲檻の設置場所と方法

捕獲効率が高い場所は、巣穴の前、ヌートリアを頻りに目撃する休憩場、上陸場です。

ヌートリアは水辺から離れるのを極端に嫌うため、捕獲檻はできるだけ水際に設置するようにします。入口を水辺側に向けて、ヌートリアの進行方向を考慮して決めることも重要です。

#### 誘引エサ

#### 誘引エサ



捕獲檻設置場所

としては、ニンジンを利用します。年間を通じて入手が可能であり日持ちもします。

#### 捕獲檻の設置期間

捕獲檻の設置期間は、1週間程度としましょう。捕獲できない場合は、設置場所を変えるなど状況を見て判断しましょう。また、捕獲できた場所には他の個体も生息していると考え引き続き設置することも重要です。

#### 捕獲檻設置の注意点

捕獲檻を設置したら毎日確認するようにしましょう。

捕獲された個体は自分で処分せず、必ず役場に連絡してください。また、他の動物を間違つて捕獲した場合は、速やかに放獣してください。

#### 捕獲を進めることの重要性

ヌートリアなどの野生動物は「特定外来生物」に指定されており、本来、地域には存在しなかった動物です。繁殖力が強いことから、徹底した捕獲を行わない限り被害はさらに増加するものと思われれます。

このことから、できる限り早期に排除することが、防除にかかる費用や労力の負担軽減につながります。

被害を未然に防ぐためにも積極的に捕獲を進めることが重要です。

問 能勢町有害鳥獣対策協議会（地域振興課産業振興係）



捕獲されたヌートリア